

サステナブルにつながる循環システムの構築を

意識しなくても環境配慮の製品を選べる世界へ

—— カイタックトレーディングとZERO-TEXはひとつの線で繋がった。

株式会社カイタックトレーディングでは、提案から納品までプロ集団として実績をあげてきました。しかし商品のベースとなる生地ブランド化や商品価値を上げる開発は出来ていなかったんです。そこから、エコをビジネスに落とし込む必要がありました。よく見た目だけのパフォーマンスでエコを唄っているところを見かけますが、そうではなく、**お客さんが商品を購入し、それがサステナブルにつながる循環システムを作るビジネスです。**その一つとして、工場から変えていくことが重要ですよ。ちょうどZERO-TEXでユニフォームのビジネスモデルを構築したいという熱い提案を社員から受け存在を知りました。そうしてZERO-TEXと繋がったんですね。**特にZERO-TEXのバックグラウンドストーリーが響きました。自分たちが持っていない、ものづくりの素材の部分で足りないピースを持っていましたね。**

—— カイタックグループのサステナブルやSDGsの取り組み

カイタックグループ全体では前向きに取り組んでいます。ワーク部門ではまだ進行中だったのでこれから構築していこうと思った時にZERO-TEXがサステナブルというピースにはまりました。知らないうちにサステナブルになっているシステムをつくりたいです。現在、リサイクル素材の使用、廃棄生地のリサイクルを行っているが、それに使用できなかったものをBIOTECHWORKS-H2で消化していくことが可

能だと思います。お客さんが知らないうちに環境に配慮した製品を選び、廃棄後も再生可能エネルギーとして循環する。それを掲げなくても製品を手にしただけでサステナブルになっているシステムを作りたいです。

—— BIOTECHWORKS-H2の可能性は無限大

BIOTECHWORKS-H2に賛同するのは、素直におもしろいし、興味があり応援したいと思ったからです。ゴミをゼロにする、CO2を削減しようという取り組みで、誰もダメという人はいないでしょう。それで本当にゴミがゼロになり、CO2削減ができればカイタックグループとしていろいろなサステナブルプロジェクトを考えることができる。やっていること自体は間違っていないと思うので、かかる費用以上の価値や効果を提供し、新しいビジネスモデルになってくれたらと期待しています。

「誠実」「変化対応」「チャレンジ」を企業理念に、カイタックグループの開拓スピリッツを育てるパイオニア。



常にアイデアの種を探しトレンドを生み
新時代を切り拓く開拓者

株式会社カイタックトレーディング
代表取締役社長
赤木 政一さん